

公益財団法人宗像ユリックス
平成 26 年度事業計画

平成 26 年 4 月

公益財団法人宗像ユリックス

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 平成 26 年度管理運営の基本方針及び事業について	
(1) 基本方針	2
(2) 事業運営	
① 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」	3～4
② 公 1、収 1 「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」	5
③ 収 2 「利用者サービス事業」	5
④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」	6～9
⑤ 公 2 「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」	10～11
⑥ 公 3 「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」	12～14
⑦ 公 3 「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」	15
(3) 法人運営	
① 組織・運営体制	16
② 財政運営	16

1. はじめに

平成 26 年度は、公益財団法人宗像ユリックスが指定管理者として、宗像市から引き続き 4 年間の負託を受ける「第三期指定管理」のスタートの年である。これまで二期・8 年間の実績を踏まえつつも、また新たな気持ちを持って、市民・利用者みなさんの期待に応えるべくスタッフ一同、業務にまい進していく決意である。昨年度は、宗像ユリックスが立ちあがってから 25 周年にあたり、合併による新市制移行 10 周年ともあいまって、「宗像ミアレ音楽祭」の開催を初めとしてさまざまな事業展開を行い、その役割りと存在感をしっかりとアピールできた年ではなかったかと自負している。また、公益財団法人としては初めての経験を重ねた一年でもあった。この間、財団スタッフの着実かつ意欲的な業務遂行によって、まずは順調な経過のうちに新たな年度に臨んでいることも報告しておきたい。

第三期指定管理者として宗像ユリックスが取り組む第一は「宗像市民および福岡・北九州にまたがる広域的な利用者を視野に、文化・芸術活動、スポーツ・健康づくり、生涯学習等を通じた、まちづくりの拠点としての役割を担う」ということである。これは宗像ユリックスに課せられた使命（ミッション）であり、そのことを改めて確認しておきたい。それと併せて、公益財団法人としての組織・機構や財務面での力量アップ、職員の意識改革と陣容の強化など、多くの課題に取り組むこととする。こうした“内なる改革”こそ、使命を果たすうえで常に求められるものだからである。

第二は、市の文化・芸術振興施策の具体的展開としての「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」への取り組みである。この事業はスタートしてから 3 年を経過した。市内の小学校 4 年生全員に本物のコンサートを体験させる「芸術鑑賞モデル事業」や「いきいき出前コンサート」、市民ギャラリーの活性化など多くの成果を生んできた。これをどう事後評価して、今後に繋げるのか。その検証を行う必要がある。

これまで進めて来た「鑑賞型から参加・育成型」へ、さらには「参画・協働型」へと新たな歩みを進めていきたい。宗像市、コミュニティ、市民活動団体との協働によるユリックスの在り方と手法をさらに求め続けることである。

今年度は、これまでも増してユリックスがみなさんのまちに飛び出していくことになるはずである。いまや“得意ワザ”となった出前コンサートを軸に、いろんなジャンルを通じてできるだけ市民の暮らしのそばにユリックスがある——。そんな新機軸に挑戦してみたいと念じている。市民・利用者みなさんのさらなるご指導、ご協力をお願いする次第である。

2. 平成 26 年度管理運営の基本方針及び事業について

(1) 基本方針

平成 26 年度は、第三期指定管理者としてスタートの年である。今回、非公募により宗像ユリックスの管理運営の負託を受けたことは、これまでの財団の管理運営が評価されたものである。今後もこれまでの実績を踏まえ更なる努力を続けていく。特に、市が平成 22 年度に策定した「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の実現に向けた市や市民、利用者、各種団体との連携・協力を進めていく。また、宗像ユリックスは、開館 25 年を過ぎ施設、設備の老朽化に伴う問題が発生する可能性が高くなってきている。今まで以上の管理運営に努める。

●宗像市文化行政政策との連携・協力

財団が培ってきた芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、宗像市文化行政への積極的な連携・協力を行う。

●各コミュニティ運営協議会や各種団体、教育機関などとの連携

今年度も実施する「ミアール音楽祭」や「アウトリーチ」「健康づくり事業」など様々な事業を各種団体などと連携して行い、宗像ユリックスファンを増やす。

宗像市民ワークショップ「ユリックス・カフェ」やホール利用者アンケートを実施する。

●宗像ユリックス事故ゼロへの取り組み

宗像ユリックスは、開館 25 年を過ぎ施設、設備の老朽化に対するチェックは重要となっている。今まで以上に、利用者が安全・安心に利用できる施設の維持管理に努めると共に市が実施する第二期保全工事の実施をサポートする。

●健全財政への取り組み

利用者ニーズに沿ったマーケティング戦略や様々な顧客サービスの導入により、「利用者の増加」と「収支改善」を図る。また、組織の効率化にも努める。

① 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（貸館事業）」

貸館事業全体の利用者数と利用料の減少傾向を抑えるため、顧客開拓のための施策立案を行なう。ホール及び展示室の利用状況を分析した結果に基づき、少ない時期の新たな利用者を獲得していく。さらにイベントホールや展示室（ギャラリー）での企業主催展示会の利用を促すことで利用料金収入アップをはかる。

また、「夜間有料学習室」、「スタジオ当日受付の半額割引」の継続、「舞台上で気軽にピアノレッスン」の利用推進など、利用者に定着したサービスを提供していくこと及び各種パンフレットへの広告掲載を適時に行ない、会議室とホールを合わせた施設稼働率のアップをはかる。

また、すでにお客様の支持をいただいているインフォメーション・貸館職員の接客レベルをさらに向上させるため、新規採用職員の積極的な接客研修への参加及びスキルアップのための研修参加をはかる。

また、施設予約・チケット予約システムの機器の更新を平成26年度中に実施する。

さらに、第三期の指定管理者として、より一層、お客様の視点・立場に立った施設運営をはかるため、平成24年度に実施した市民アンケートの結果をもとに、施設全体に対しての利用実態と満足度の把握と分析を行い、魅力ある施設サービスのアイデアに生かせるようすすめていく。また、ホール利用者に対してもアンケートを実施し、施設の利用環境改善に活かしていく。

備品の定期的な更新や利用が多い備品の補充をしていくなど、利用環境を向上させ、施設利用者だけでなく来場者全体の満足度アップをはかる。

常に利用者の意見を大事にした施設運営とサービスの提案を継続させていき、「利用料金収入アップ」、「施設稼働率アップ」、「利用者満足度アップ」に取り組むことで施設利用者数の増加を目指す。

【 数値目標 】

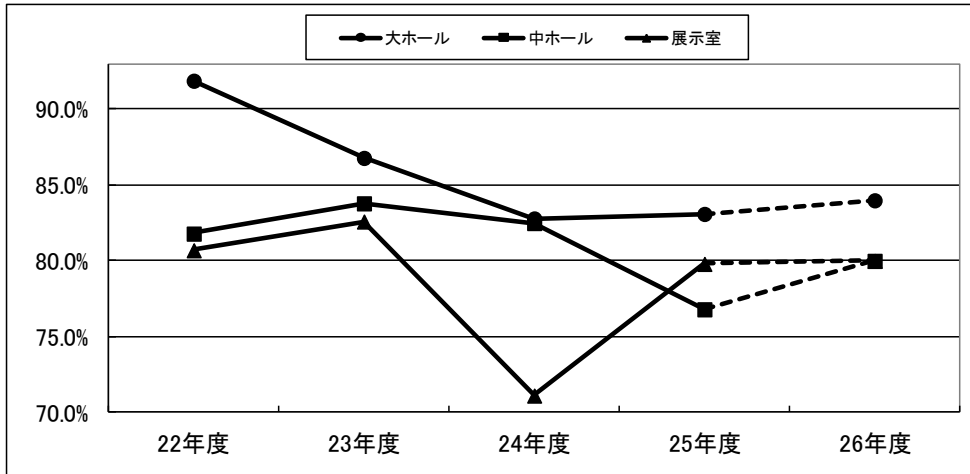
●3大施設平均利用率 81.3% 【大ホール 84.0%、中ホール 80.0%、展示室 80.0%】

3大施設利用率の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
3大施設利用率	84.6%	84.0%	79.6%	79.9%	81.3%
大ホール	86.9%	84.9%	86.0%	83.1%	84.0%
中ホール	82.8%	82.6%	84.0%	76.8%	80.0%
展示室	82.2%	71.4%	80.0%	79.8%	80.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



【 数値目標 】

●本館等利用者数 500,000 人 / 本館等利用料金 55,000,000 円

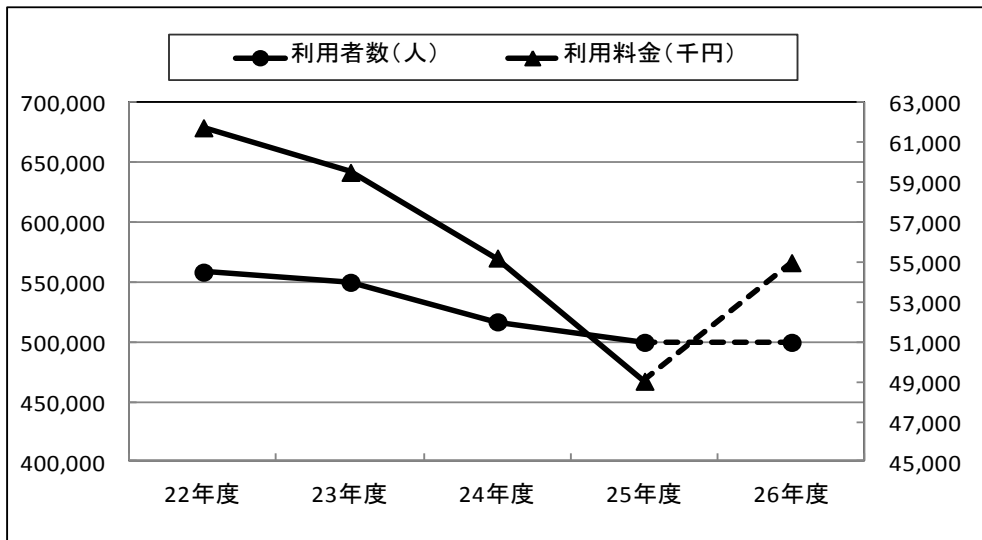
本館利用者数・利用料金の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
利用者数(人)	558,694	550,216	517,139	500,000	500,000
対前年比	99.4%	98.5%	94.0%	96.7%	100.0%
利用料金(千円)	61,768	59,530	55,231	49,048	55,000
対前年比	89.0%	96.4%	92.8%	88.8%	112.1%

※利用者数：本館一般施設、図書館の利用者と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



② 公1、収1「公園施設等の管理運営事業（施設管理）」

平成26年度に宗像市が実施する第二期保全工事は、本館外壁タイル改修工事やゆ〜ゆ〜プール管理棟、テニスコートクラブハウス改修工事などが予定されている。各工事とユリックス利用者とのトラブルが起こらないように十分な調整を行っていく。

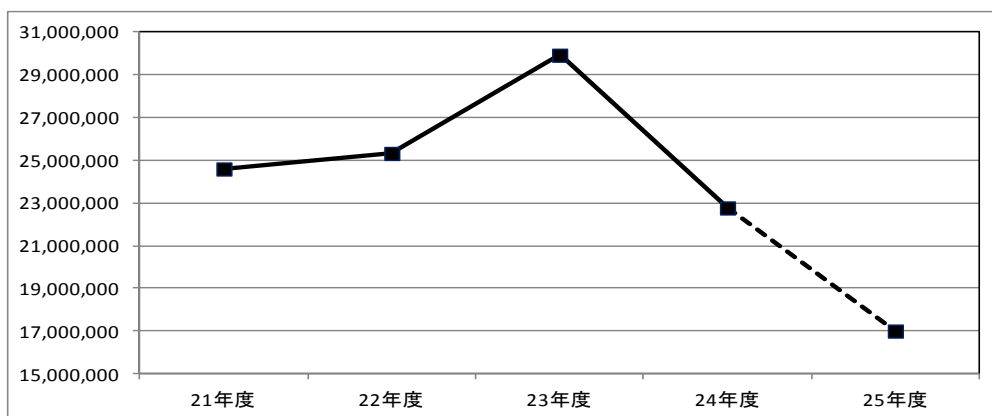
また、財団で行う修繕工事は迅速に対応し、施設の長寿命化やユリックス来園者の事故ゼロを目指す。公園内の植栽管理は、今年度も更なるレベルアップを目指していく。

安全管理としては各設備の法定点検の徹底や例年実施している防災訓練を2度実施する。

【 修繕状況 】

※25年度は見込値

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
修繕発生件数(件)	104	116	129	105	110
対前年度比	92.0%	111.5%	111.2%	81.4%	104.8%
修繕費(円)	24,594,145	25,322,627	29,923,555	22,768,586	17,000,000
対前年度比	142.4%	103.0%	118.2%	76.1%	74.7%



③ 収2「利用者サービス事業」

●自動販売機設置事業

利用者に飲食物の便宜を供するために公園内の29カ所に自動販売機を設置している。設置業者から売上額の15～35%を手数料として収入している。

平成26年度も一定の収入を確保するよう努める。

●物品等販売事業

本館インフォメーション窓口において、傘、切手、収入印紙、テニスボールなどの販売事業を行なっている。平成26年度も利用者サービスの向上と、一定の収入を確保するよう努める。

④ 公 2 「文化芸術振興事業（文化事業）」

第三期指定管理期間は、「普及・参加・育成型事業重視」の方向性を堅持しつつ、宗像市文化芸術振興条例に定められた理念である「文化芸術に親しめる環境整備」、「文化芸術のための人づくり」、「文化芸術を活かしたまちづくり」の実現に向けた具体的な取り組みを宗像市と協働し推進する。平成 26 年度は理念を具現化した計画を実行する初年度となる。

また、平成 25 年度に実施した宗像ユリックス開館 25 周年記念事業「宗像ミアール音楽祭」は、反響が非常に大きく、単発的なイベントとして終わらせずに継続的・発展的に取り組み、文化芸術の担い手となる人材の養成と交流による市民文化活動の活性化に寄与していく。

そして、「むなかた芸術祭」、「むなかた吹奏楽祭」、「むなかた文化祭」、「むなかたこども芸術祭」の 4 事業については、市の文化行政の中核事業であり、市と十分な連携を取りながら、共催事業として取り組む。

●文化芸術に親しめる環境整備

<コミュニティ・学校との連携による鑑賞機会の創出>

第二期より取り組みを始めたアウトリーチ事業をコミュニティ・学校との連携協力により積極的に推進し、長期的・継続的なプログラムとして展開していく。平成 26 年度は特にコミュニティでの鑑賞機会創出について重点的に取り組んでいく。

<鑑賞型事業の計画的な実施と工夫ある展開>

一つひとつの事業を単発的な事業とせず、可能な限り連携させ、また、ワークショップを併設するなどの工夫を加えていくことで、新規鑑賞者の育成を目的とした計画的な事業展開を行っていく。

また、アウトリーチ事業への投入マンアワーの急激な増加もあり、担当者が計画的な事業運営が可能となる事業本数、内容を見極めたマネジメントを行っていく。

●文化芸術のための人づくり

市民文化活動の活性化を見据えて、文化芸術の担い手の養成や交流を積極的に推進していくため、財団のコーディネーター機能を高める。積極的な外部研修参加や先進地視察の実施などを通して、コーディネーターのスキル向上を図っていく。

●文化芸術を活かしたまちづくり

<宗像ミアール音楽祭の継続>

平成 25 年度に実施した宗像ミアール音楽祭の反響は非常に大きく、長期的な視点

をもった事業展開が必要と考える。「ホールコンサート」はもちろん、「アウトリーチ」、「市民ステージ」の評価も高く、この形態を維持していく。

また、本音楽祭の大きな特徴は市民参加であり、市民の祭り、ハレの空間として位置付けて取り組む。

<スマイルキッズプログラム>

次代を担う子供たちへ文化芸術体験の場を積極的に提供し、直に触れることで生まれる感動や喜びを通して、豊かな感受性を育むことを目的とする。既存の事業に加え、新規事業を積極的に取り組み、教育分野との連携などによる効果的な広報を行っていく。「スマイルキッズプログラム」を実施することで、宗像市が都市ブランドとして目指す、「子どもがすくすく育つまち」・「子どもにやさしいまち」実現に貢献することで、公共ホールとしての役割を果たしていく。

【対象事業】

- ・小学校4年生芸術鑑賞モデル事業
- ・いきいき出前コンサート(幼稚園・保育所対象など)
- ・すくすくコンサート
- ・むなかた子ども芸術祭
- ・ユリックスジュニアブラス(新規事業)
- ・仲道郁代ピアノで遊んでみませんか?(新規事業・毎年変更) 等

※平成27年度より公共ホールダンス活性化事業(主催：地域創造)取組予定

●連携体制

宗像市・教育委員会・各コミュニティ運営協議会との連携を積極的に行うことで、事業効果をより高めていく。新たに「宗像市 文化芸術のまちづくり10年ビジョン」の取り組みとして、コミュニティ・センターでの文化芸術の鑑賞機会の確保を行っていく。

●「ユリックス倶楽部」運営

平成25年度会員数は3,417人と過去最高となった。今後も、特典の拡充や勧誘強化などによって、更なる会員数の増加に取り組むと共に、積極的な情報提供による事業参加を図っていく。

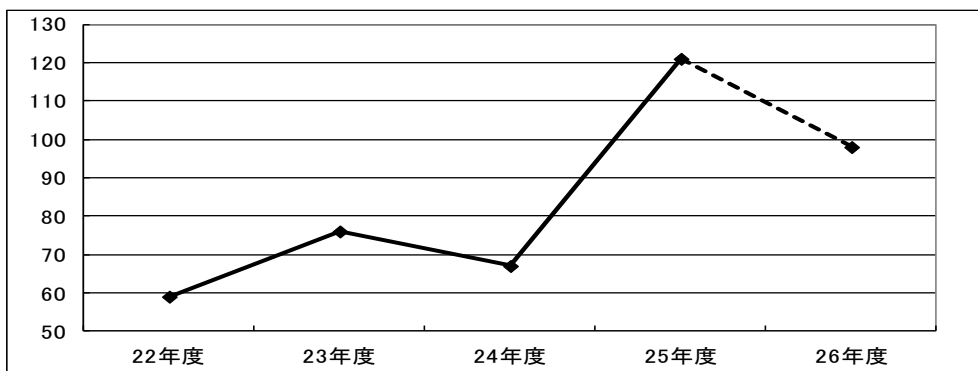
【 数値目標 】 ●事業本数 【98本】

平成26年度は、共催事業を含め年間98本とする。

事業本数（ジャンル別）

※25年度は見込値、26年度は目標値

事業ジャンル	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
音楽(クラシック)	9	11	10	9	13
音楽(クラシック以外)	5	9	6	7	7
映画	13	16	13	16	12
演劇・古典芸能	9	10	8	8	6
美術	4	3	4	3	2
アウトリーチ	6	18	15	66	48
その他	13	9	11	12	10
合計	59	76	67	121	98



【 数値目標 】 ●入場者数 【50,000人】

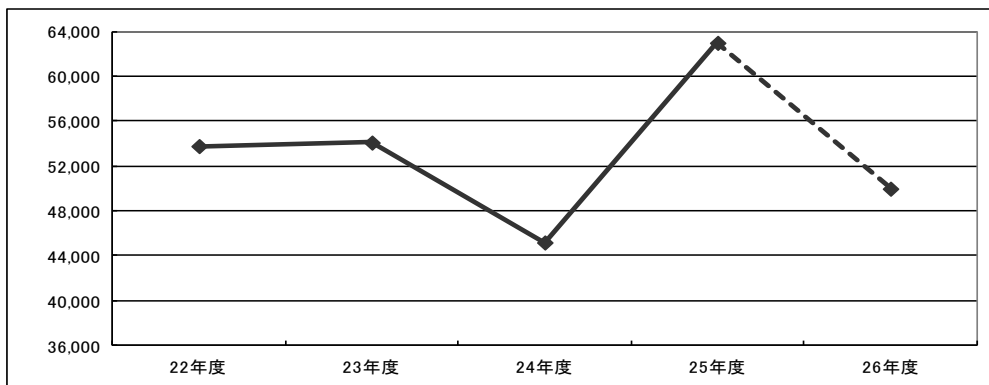
入場者数は、事業本数98本実施を前提条件として、50,000人を目標とする。事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行う。

文化事業・入場者数の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	53,798	54,110	45,206	63,000	50,000
対前年比	140.5%	100.6%	83.5%	139.4%	79.4%
対前年人数	15,503	312	8,904	17,794	△13,000

※22年度より、「むなかた芸術祭」など4事業が加わったため、入場者数が増加。



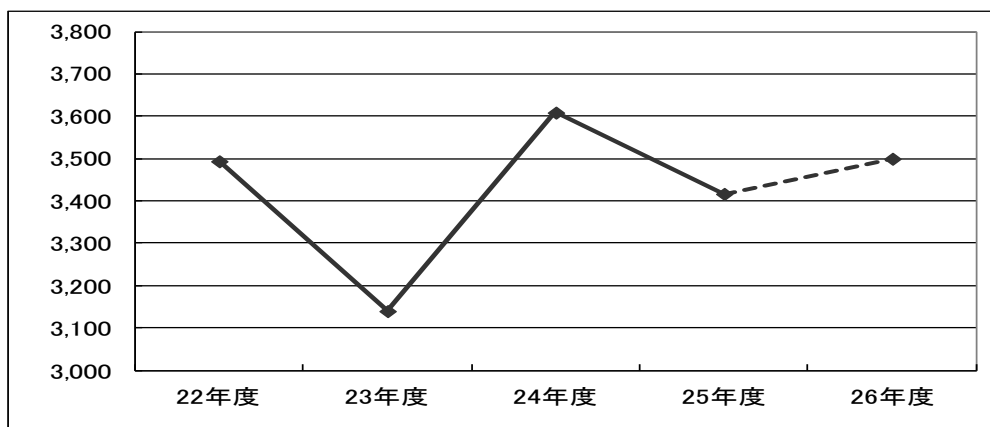
【 数値目標 】 ●ユリックス倶楽部会員数 【3,500人】

会員数目標を3,500人とし、以下の対策に取り組む。

「ユリックス倶楽部」会員数の推移

※26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
会員数	3,494	3,140	3,609	3,417	3,500
対前年比	105.0%	89.9%	114.9%	94.7%	102.4%
対前年人数	167	△ 354	469	△ 192	83



⑤ 公2「文化芸術振興事業（プラネタリウム運営事業）」

平成26年度は、入場者数の増加に向けた施策を積極的に行っていく。ニーズに合わせたプログラムの提供や観望会の実施、ボランティア活動の支援などに加え、小学生向けの講座実施やリラクセーションプログラムの夜間投影などの新規施策を開始する。結果として、地域に根差した活動・文化振興を図っていく。

● ニーズに適合した質の高いプログラムの提供

プラネタリウムでは、リニューアルを機に進めてきた、年齢層を軸に対象を絞ったプログラムの展開が定着してきた。子どもにターゲットを絞った「ほしぞらクレヨン★」では、季節毎のショートストーリーの変更以外にも、クイズや落書きのバリエーションを日々増やすなどの工夫を行っていく。また大人を中心に人気のリラクセーションプログラムは、投影時刻に関する要望を受け、月1回夜間投影を実施し、さらなるニーズを探っていく。おとな向けでは、アカデミックで科学的な内容のものが多くなったが、近隣の館には無いラインナップであり、宗像独自の事業として定着し始めている。今年度は「国際宇宙ステーション」「月食」「隕石」「オーロラ」など、もう少し親しみのある内容をテーマにしつつ、観覧者の高い知的好奇心を満たせるよう職員の研鑽を進め、さらなる質の向上を図っていく。

● 市との連携による団体利用促進の強化

学校団体向けプログラムの利用促進に積極的に取り組んでいく。設置目的に沿ったプログラムであり、市及び教育委員会との連携による利用促進に向けた仕組みの構築を行っていく。1投影当たりの入場者数が多いため、入場者増加施策としても効果的である。

また、平成25年度は県内広範囲の小・中・特別支援学校に案内を送付した結果、遠方からの来館もみられた。今年度も送付する範囲を拡大し、利用件数増加に力を入れていきたい。

● 天文普及に関わる事業

天文普及に関する事業として、これまで開催してきたサイエンス・カフェに代わり、小学生を対象とした天文や宇宙に関する講座を通年で実施する。毎月1回カリキュラムに沿った例会を実施することで、子どもたちが科学に興味を持つきっかけづくりの場としたい。さらに、年間パスポートの特典を付与することで、市内唯一の科学的な教育施設であるプラネタリウムの利用を促進していく。

● ボランティアによる天文普及活動の支援

ボランティア（ほしぞらスタッフ）は、現在 52 人の登録があり、観望会を中心に活躍している。近年ボランティアの参加率が低下し、活動の幅が狭くなってきている。今年度は活動の見直しを進め、ボランティアが主体的となって実施する活動と、プラネタリウム事業のサポート活動とを明確にし、個々が参加しやすく自己実現に適う活動ができるよう支援する体制を整えていきたい。

● 積極的な広報活動

学校団体への利用促進や他施設へのリーフレット・ポスターの送付・設置、アンケート回答者（5,000 件）への案内送付など、入場者数増に向け積極的なアプローチを進めていくことで目標を達成していきたい。また、通年で実施する小学生対象の講座を通じて年間パスポート制度を試行したり、市内小学校 1 年生全員に招待券を配布したりするなどし、小学生を核にした家族単位での観覧者増を目指していく。

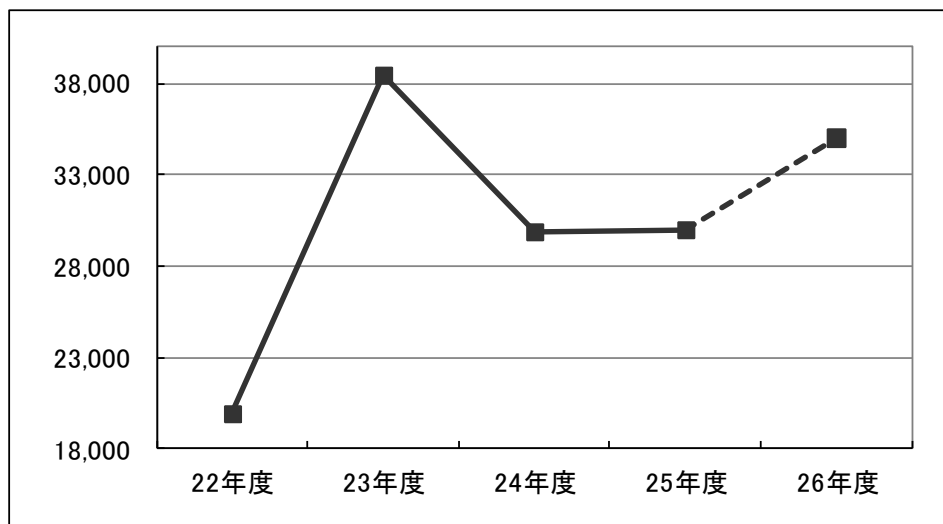
【 数値目標 】 ● 入場者数 【35,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※25 年度は見込値、26 年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	19,925	38,465	29,887	30,000	35,000
対前年比	82.8%	193.0%	77.7%	100.4%	116.7%
対前年人数	△ 4,126	18,540	△ 8,578	113	5,000

※平成 22 年度は改修工事による営業休止のため、実働 8 ヶ月での入場者見込数



⑥ 公3「健康増進事業（健康増進施設管理運営事業）」

●アクアドーム

アクアドームは、以下の基本的な方向性に沿った施設運営を行っていく。

- ・健康づくり運動等の実践者の総合的健康の維持向上を目指す。
- ・地域に密着した健康づくり運動等が行なえる施設運営を行う。
- ・お客様の要望に対応し継続可能な生涯スポーツ等へ誘う。

年間入場者数は、平成23年度以降200,000人を超える数値を記録しており、好調に推移している。この数値傾向の維持、上昇を目指し、広報活動等を積極的に行っていく。具体的にはアクアドームで行われるイベント情報や健康情報をまとめた「月刊アクアドーム」の作成、配布や年4回の新聞折り込みチラシなどを実施し、新規利用者の獲得に努めていく。

また、宗像市との積極的な連携を進め、健康・スポーツに関する基本理念に沿った事業展開を実施し、利用者の「総合的健康の維持向上」を目指していく。

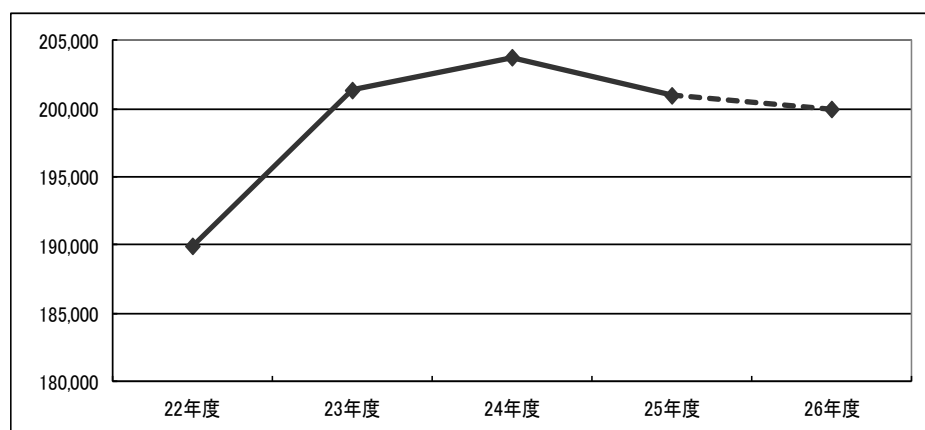
そして、昨年好評であったグラウンドゴルフ大会の実施や休日を利用した「アクアドーム施設」体験会の実施などにも取り組み、お客様を継続可能な生涯スポーツへ誘っていく。

【 数値目標 】 ●入場者数 【 200,000人 】

アクアドーム入場者数の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	189,953	201,388	203,798	201,000	200,000
対前年比	106.2%	106.0%	101.2%	98.6%	99.5%



●ゆ～ゆ～プール

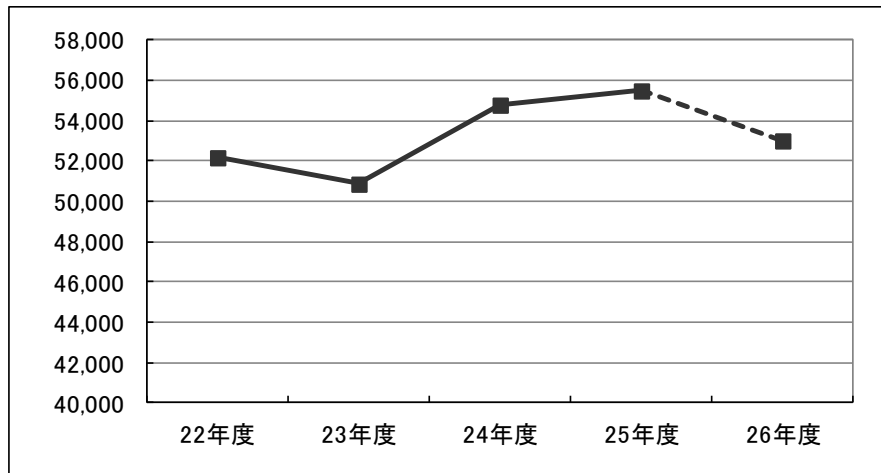
25年度にプールサイド等の利用環境が改善され、入場者数は好調に推移している。利用料金の値上げもあり、入場者53,000人を目標とする。

【 数値目標 】 ●入場者数【 53,000人 】

ゆ～ゆ～プール利用者数の推移

※26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	52,165	50,855	54,772	55,477	53,000
対前年比	120.8%	97.5%	107.7%	101.3%	95.5%
対前年人数	8,971	△ 1,310	3,917	705	△ 2,477



●パットゴルフ場

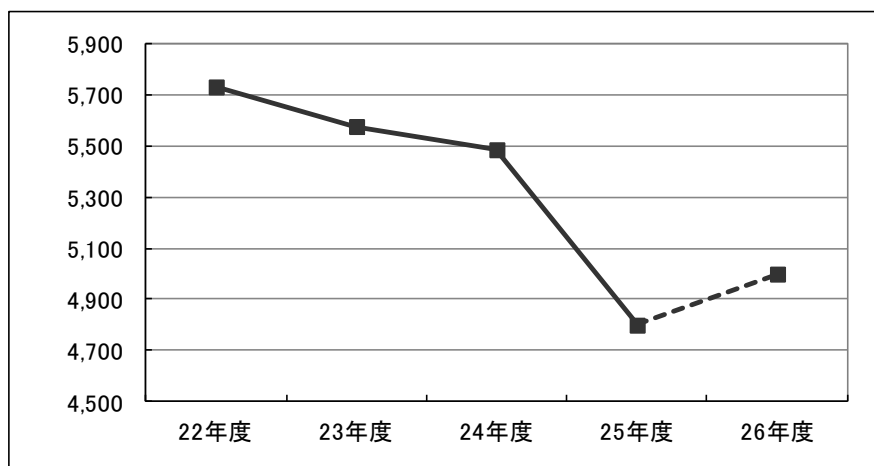
入場者数の減少傾向が続いている。シニアやファミリーなど利用者を明確にしたサービス施策を実施しトレンドの変化を目指していく。

【 数値目標 】 ●入場者数【 5,000人 】

パットゴルフ場利用者数の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	5,733	5,578	5,487	4,800	5,000
対前年比	85.0%	97.3%	98.4%	87.5%	104.2%
対前年人数	△ 1,008	△ 155	△ 91	△ 687	200



●テニスコート

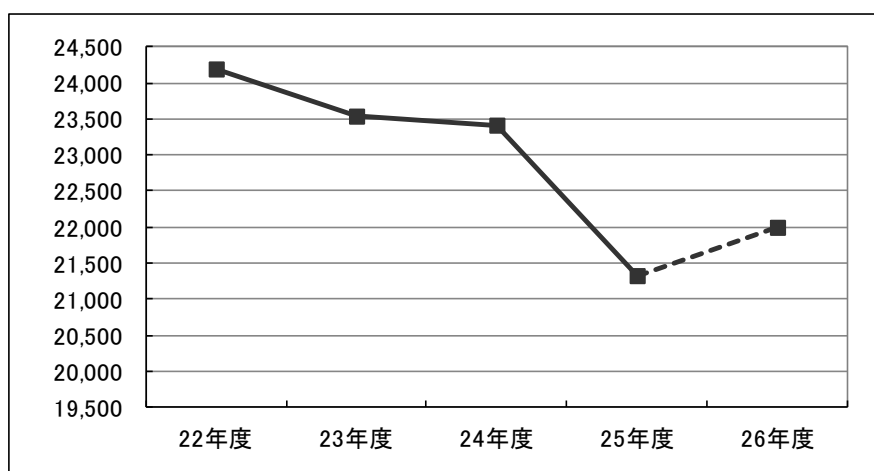
新サービスの導入検討や積極的な広報実施により、入場者数の減少傾向の歯止めとする。

【 数値目標 】 ●入場者数【 22,000 人 】

テニスコート利用者数の推移

※25年度は見込値、26年度は目標値

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
入場者数	24,196	23,542	23,417	21,330	22,000
対前年比	89.7%	97.3%	99.5%	91.1%	103.1%
対前年人数	△ 2,777	△ 654	△ 125	△ 2,087	670



⑦ 公3「健康増進事業（健康増進企画・体験事業）」

健康づくり事業の中心的なプログラムであるウエルネスクラブとスイミングスクールについては、積極的な広報活動を展開し地域の健康づくりの拠点としての存在感を高めていく。

新たな取り組みとして以下のことを実施する。

- ・宗像市健康づくり課と連携し「特定保健指導 動機付け支援」などを行う。
- ・好評である料理教室の拡充施策として、コミュニティセンターでの料理教室をスタートさせる。

また、地域に密着した健康づくり運動として、近年増加しているウォーキング愛好家を対象として宗像市健康づくり課作成のウォーキングマップを活用した参加無料のイベントを実施する。

(3) 法人運営

① 組織・運営体制

平成 26 年度は第三期指定管理者としてのスタートの年である。これまでの第一期、第二期指定管理者としての自信をもって宗像ユリックスの管理運営に努めていく。

組織・運営体制では、基本的には中核職員を中心に現在の体制を維持するが、中核職員の移動や職位の変更も行う。現在運用している「人事管理システム」¹及び「人事評価制度」²の変更についての検討をおこなう。また、職員研修を充実させ、財団職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。

財団の運営に欠かすことのできない「チケット販売システム」と「施設管理システム」は更新の時期にきている。平成 27 年 1 月導入を目指し、システムの選択、構築を進める。

② 財政運営

平成 26 年度は、第三期指定管理スタートであり、その指定管理料は、約 2 千万円アップの 3 億 6882 万 8 千円である。しかし、増額部分は、消費税、光熱水費のアップなどにより吸収される。

4 月より実施される利用料金の変更は、財団の財政運営に大きな影響を与える。ほとんどの利用料金が約 2 割の値上げである。利用料金収入の増加が期待されるが、利用の減少につながる可能性もある。注意深く確認していくと共に収入確保の努力を行う。

文化事業においては、「ミアーレ音楽祭」の継続や新事業「スマイルキッズプログラム」など財政面ではきびしいと思われる。各事業のチケット販売の努力を続けると共に、文化庁などの補助金も獲得する。「オフィシャル・パートナー制度」³や「オフィシャル・サポーター制度」などを活用した財源の確保に努める。

支出面では、消耗品などの節約や各業務の効率化に努める。また、電力契約についての見直しを検討する。

【 指定管理費の推移 】

予算ベース	第一期指定管理費	第二期指定管理費	第三期指定管理費
管理運営コスト	357,308,000	346,083,000	368,828,000
対前期増減額	—	△11,225,000	22,745,000

¹ 財団職員を中心とする組織を目指し、平成 19 年 3 月策定。職位、待遇等について規定。

² 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度より運用開始。

³ 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 26 年についても更新。